

# 同志社大学

## 2011年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2012年 3月19日提出

所 属	職 名	氏 名
心理学部	准教授	興津真理子
研 究 題 目	家族造形法における対人的物理的要因と主観的感情体験との関連	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究では家族療法の一技法である「家族造形法」についての基礎と臨床とを結ぶことを試みている。</p> <p>これまでに引き続き、今年度も研修会をキャンパスプラザにて継続して行い（1回/月、8回/年）、その中で様々な事例について検討を行った。それによって臨床現場（学校、病院、福祉施設など）での事例検討に、家族造形法が有用であることが確認された。この際、事例のプライバシー保護に留意しつつ記録を試みてきており、これをもとに実証的なデータを得るべく研究を進めている。</p> <p>また、家族造形の基礎的研究としては、女子大学生を参加者として、家族造形における人物間の距離と、質問紙により得られる心理的距離との関連を検討する実験をおこなった。この成果の一部は7月に行われる家族心理学会において発表の予定である。</p> <p>以上のように、実践的な取り組みを進める一方で、基盤となる心理的機序に関する研究にも着手することができたことが今年度の成果である。</p>	